

石川県および富山県におけるアブラナ科野菜在来種の 調査と収集

吉秋 齋¹⁾・石田 正彦¹⁾・畠山 勝徳¹⁾・北田 幹夫²⁾・
西畑 秀次³⁾・梅林 智美³⁾・北井 芳範⁴⁾*・山辺 守⁵⁾**

- 1) 野菜茶業研究所・野菜育種研究チーム
 - 2) 富山県農業技術センター・野菜花き試験場
 - 3) 富山県農業技術課
 - 4) 石川県農業総合研究センター
 - 5) 石川県立大学
- * 現所属：石川県生産流通課
** 現所属：石川かほく農業協同組合

Exploration and Collection of Local Varieties of Cruciferous Vegetables in Ishikawa and Toyama Prefectures

Hitoshi YOSHIAKI¹⁾, Masahiko ISHIDA¹⁾, Katsunori HATAKEYAMA¹⁾,
Mikio KITADA²⁾, Hidetsugu NISHIHATA³⁾, Tomomi UMEBAYASHI³⁾,
Yoshinori KITAI⁴⁾* and Mamoru YAMABE⁵⁾**

- 1) *Vegetable Breeding Research Team, National Institute of Vegetable and Tea Science, Tsu, Mie 514-2392, Japan*
 - 2) *Vegetable and Ornamental Crops Research Station, Toyama Agricultural Research Center, Tonami, Toyama 939-1327, Japan*
 - 3) *Agricultural Technology Division, Toyama Prefectural Office, Toyama, Toyama 930-8501, Japan*
 - 4) *Ishikawa Agricultural Research Center, Kanazawa, Ishikawa 920-3198, Japan*
 - 5) *Ishikawa Prefectural University, Nonouchi, Ishikawa 921-8836, Japan*
- * present affiliation: *Production and Distribution Division, Ishikawa Prefectural Office, Kanazawa, Ishikawa 920-8580, Japan*
- ** present affiliation: *Japan Agricultural Cooperative Association (JA-Ishikawakahoku), Tsubata, Ishikawa 929-0326, Japan*

Summary

The exploration for collecting cruciferous germplasms was carried out at eight locations in Ishikawa and Toyama Prefectures in 2006 (Fig. 1, Table 2). A total of 31 samples consisted

10 of turnip (*Brassica rapa*), and 4 of chinese mustard (*B. rapa*), 14 of leaf mustard (*B. juncea*), 1 of rutabaga (swede) (*B. napus*), 2 of radish (*Raphanus sativus*) were collected (Table 2).

KEYWORDS : Brassicaceae, germplasm, cultivars, Ishikawa Prefecture, Toyama Prefecture

1. 目的

各地域の環境に適応して栽培されてきた在来品種は、その土地独自の食文化を育んできた貴重な財産であるとともに、育種材料としても重要な遺伝資源である。北陸地域にはアブラナ科の伝統野菜が多く存在し、また、焼畑が営まれていた中山間地では、今も多くの在来種が残っている。とくに石川県の白山麓地域では、今も焼畑の文化伝承に努めており、北海道や東北以外の地域では珍しいルタバガ (*Brassica napus*) も栽培されている^{4),5),6),7),8)}。これまでに北陸地域において雑穀類¹⁾や麦類近縁野生種³⁾の調査・収集が行われ、この時に福井県のカブ2点と水菜1点が同時に収集されたが、それ以外の県ではアブラナ科野菜の調査・収集は行われていない。そこで今回、石川県および富山県におけるアブラナ科野菜在来種の調査と収集を行った。

2. 調査・収集方法

今回の探索では、文献^{2),4),5),6),7),8)}や、石川県農業総合研究センター（石川農総研）、富山県農業技術センター野菜花き試験場（富山野菜花き試）等から得た情報を基に、2006年10月18～20日に石川県（白山市の2地点）で、また11月20～23日に富山県（射水市・富山市・南砺市の各1地点）と石川県（七尾市の1地点・穴水町の2地点）で調査・収集を実施した（Fig. 1, Table 1,2）。探索・収集に当たっては、野菜茶業研究所の別所種久技術専門職員の協力を得た。

今回訪問できなかった地域の遺伝資源については、富山野菜花き試で増殖・保存している種子の提供を受けるとともに、生産者が増殖した種子を後で石川農総研より郵送してもらうことにした。また、すでに栽培されなくなっていて入手することが困難な遺伝資源については、石川農総研で増殖・保存している種子の提供を受けた。なお、本文中の○数字は調査収集地点のNo.を示し、Fig. 1 および Table 1 のNo. に対応する。また収集品のリストを Table 2 にまとめた。

3. 収集の結果

2006年10月19～20日に、石川県石川農林総合事務所の小森明子さん、石川県白山ろく民俗資料館の山口一男さんらの案内により、ジーンバンクに未登録である「イジワルカブラ」(*Brassica rapa*, 石川県白山市河内①)、「エドカブ」(*B. napus*, 石川県白山市白峰②)の調査と種子の収集を行い、また、山口一男さんが福井県の嵐カブから選抜し増殖した「アラハタカブ」(*B. rapa*, 石川県白山市白峰②)の種子も収集した。続いて、11月20～21日に、高岡農業普及指導センターの西村聡さん、砺波農業普及指導センターの大浦佳世子さんらの案内により、ジーンバンクに未登録である「平野ダイコン」(*Raphanus sativus*, 富山県射水市平野③)、「中地山カブ」(*B. rapa*, 富山県富山市中地山④)、「五箇山カブ（小瀬系）」(*B. rapa*, 富山県南砺市小瀬⑤)の調査と種子の収集を行い、また、富山野菜花き試が増殖保存している「横植えダイコン」(*R. sativus*)、「五箇山カブ（千束系）」(*B. rapa*)の種子も収集した。11月22日に、七尾市産業部農林課の前畑幸雄さん、奥能登農林総合事務所の廣田泰さんらの案内により、ジーンバンクに未登録である「ゴウサラシナ」(*B. rapa*, 石川県七尾市⑥)、「曾良カブラ」(*B. rapa*, 石川県穴水町曾良⑦)、「ムカシカブラ」(*B. rapa*, 石川県穴水町越渡⑧)の調査と種子の収集を行った。また、「カラシナ（川浦）」(*B. juncea*, 石川県珠洲市川浦)、「二塚からしな」(*B. juncea*, 石川県金沢市)



Fig.1. Exploration sites of cruciferous germplasm in Ishikawa and Toyama Prefectures.
Number on this map refers to Table 1

石川県と富山県におけるアブラナ科遺伝資源の調査地点
地図上の番号は Table 1 の番号と同一である .

Table 1. Itinerary of the exploration and collection site number.
探索収集日程と調査地番号

月. 日	旅程と調査地点
10. 18	三重県津市→石川県金沢市
10. 19	石川県金沢市→石川県白山市（河内）①→白山市（白峰）②
10. 20	石川県白山市（白峰）②→三重県津市
11. 20	三重県津市→富山県射水市（平野）③→富山県富山市（中地山）④→富山県砺波市
11. 21	富山県砺波市→富山県南砺市（上平）⑤→石川県金沢市
11. 22	石川県金沢市→石川県七尾市⑥→石川県穴水町（曾良）⑦→穴水町（越渡）⑧ →石川県金沢市
11. 23	石川県金沢市→三重県津市

を石川農総研より入手した。その他、石川農総研が増殖保存している種子の分譲を含め、カブが10点、ツケナが4点、ルタバガが1点、カラシナが14点、ダイコンが2点で、合計31点の遺伝資源を収集した (Table 2)。

1) イジワルカブラ (*B. rapa*, 白山市河内①)

名前の由来は、時に雑草と化し、迷惑で意地悪なカブという意味で、平家の落人伝説から別名「ヘイケカブラ」とも呼ばれている。1960年頃まで旧河内村の焼畑で栽培されていたカブで、焼畑にした最初の年に雑穀（ヒエやアワ等）と混作された。かつては、自給野菜として葉と根部を漬け物や煮物に利用する他、採種した種子を搾油用に販売して収入を得ていたようである。現在でもこぼれ種が河原に根付き自生しているが、3年前にそこから採種したものを使って、カブの特性を評価するため試験栽培が行われている。2006年は、直海谷川の上流の谷間1aを開墾して、試験栽培を行っており、今回はその圃場を調査する予定であったが、数日前に雨で川沿いの斜面が崩れ、試験圃場へ向かう林道が通れなくなり、訪問できなくなった。そこで、奥池地区の民家で自家菜園用に植えられている本葉8、9枚程の幼植物を視察した (Photo 1)。葉には毛じあり、葉色は、緑色のものと、葉柄部に紫色を帯びたものとが混在していた。石川農総研で行われた特性調査の結果によると、種子の色に赤褐色のものと黒褐色ものがあり、ともに種皮はB型であった。また、葉身は欠刻がやや多めで、葉の裏に毛じがあり、草姿は開帳型で抽台性は中程度、根部の形は腰高で、緑または淡紫色の補充色を持ち、肥大性は遅く、繊維質が多かった^{7) 8)}。今回の調査では、石川農林総合事務所が、2006年に現地の河原に残っていた株から増殖した種子を持ち帰った。

2) エドカブ (*B. napus*, 白山市白峰②)

このカブは、北海道の「アタネ」や東北地方の「センダイカブ」と同じルタバガの一種で、石川県が栽培の南限とされる。かつては、小松市、加賀市でも栽培されたという記録が残っているが、現在では白山麓の白峰地域のみで栽培される^{4) 6)}。名前の由来には、柄の様なツル首を持つカブの形状から「エカブラ」と呼ばれ、それが「エドカブ」となったという説や、「蝦夷（エゾ）カブ」が「エドカブ」になったのではないかという説がある。葉はニンジンや油揚げと一緒に煮物とし、若い葉柄は油炒めにする。根茎部は甘味が強く、冬期間の保存食として煮物などに用い、入手しにくかった砂糖の代用として甘味を加えるのにも利用された。冬期に行われる報恩講（浄土真宗の行事）で振る舞われる料理の具材としても用いられる。白山ろく民俗資料館の山口一男さんが栽培しているカブは、浦ハツエさんの種子を受け継いだもので、毎年、焼畑脇の畑に移植した数株から採種して利用している。エドカブの種は、5月にヒエと一緒に焼畑へ播かれ、7月にエドカブの苗だけを近くにある平坦な畑に移植し、11月下旬に収穫する。山口一男さんの案内で、焼畑地と収穫前のエドカブを調査することができたが、現地は下田原川沿いの未舗装の林道を奥深く入った傾斜地にあり、周囲にはクマも出没するとのことであった。焼畑の傾斜地にはヒエとアワが植えられており (Photo 2)、エドカブは林道脇の平坦地に移植されていた。エドカブの葉は、大きく肉厚でワックスがあり、葉柄部や根茎部の色は緑のもの (Photo 3) と紫色を帯びたものとがあった。山口一男さんの話では、紫色を帯びたものの方が生育は旺盛で肥大も良いとのことであった。石川農総研で行われた特性調査の結果によると、胚軸は帯紫色で、葉は西洋ナタネのように肉厚でワックスがかかり頭大羽裂（先端が大きく、羽状に深裂した葉）となり、花粉稔性は高いが遅帯染色体など染色体行動に異常がみられている^{7) 8)}。今回の調査では、山口一男さんが2005年に増殖した種子を持ち帰った。

3) 平野ダイコン (*R. sativus*, 射水市平野③)

名前は、産地の地名に由来しており、1930年頃に導入されたタクアン用の青首ダイコン (Photo

4) で、根部の直径は3 cm、長さは45cm程の細長い形状となる。9月上旬に播種し、10月下旬～11月にかけて収穫されるが、今回調査した高波清重さんの圃場でも、ちょうど収穫作業が行われていた。収穫物は、25本ずつ縄で縛ってハサ掛けし (Photo 5)、寒風にさらし干してから、消費者へ直接または市場へ出荷される。ダイコンの漬け込みは12月から始まり、タクアン以外にも、短く切って縦割りにしたコヌカ漬けを生産している。種子は、毎年、生産者の高波清重さんが自家採種を行っているが、早く干せるように細い形状で尻の丸いものを採種母本として残しているとのことであった。近年、周囲で多様な品種が栽培されるようになったことから、異品種の交雑 (白首や紫色の混じり、形状のばらつき) が懸念されるようになっており、品種の維持管理が問題となっている。今回の調査では、高波清重さんが2005年に増殖した種子を持ち帰った。

4) 中地山カブ (*B. rapa*, 富山市中地山④)

名前は、産地の地名に由来しており、今回の調査では、生産者の榎キミ子さん、岩木輝子さん、土田トミエさんが栽培している圃場を調査し、漬け物に加工したカブを試食した。根部の形は、扁円または球形で、根部の皮色は、赤色が主となるが、紫色の個体も混在していた (Photo 6)。葉の色 (アントシアニンの着色) にも個体によりバラツキがみられた。種子は毎年自家採種して利用しているとのことであるが、葉は緑色で、根部は赤いものが本来の姿だということであった。葉ワサビの様な辛味を出すために根部を細かく切って湯通ししてから、一夜漬けとし、自家消費が主である。8月20日頃に播種して、10月下旬頃に収穫する。収穫したカブは、伏せて保存すれば4月頃まで保存が可能で辛味も増すという。今回の調査では、榎キミさんと岩木輝さんが2006年に増殖した種子を持ち帰った。

5) 五箇山カブ (小瀬系統) (*B. rapa*, 南砺市小瀬⑤)

名前は、産地の地名に由来しており、地域により形状の異なる系統がある。今回調査した小瀬地区の系統は、長円錐形となるものが多く、根部の皮色は淡赤色で、肉質はやや柔らかく、甘味が強い。日持ち性はやや劣るが、生食にも適し、根を丸ごと塩漬けにして冬の食料としてきた。羽場美代子さんが、今でも自家消費用として栽培しており、8月下旬に播種し10～11月に収穫している。栽培地は、標高が400m以上の山間地で、連作により根こぶ病の発生がみられた。種子は毎年自家採種したものをを使うということだが、根形にはばらつきがあり、球形のものと長円錐形のものが混在していた (Photo 7)。今回の調査では、羽場美代子さんが2006年に増殖した種子を持ち帰った。

6) ゴウサラシナ (*B. rapa*, 七尾市⑥)

葉は硬い毛じに覆われており、その形態から「葉を曝す」という意味で「ゴウサラシナ」と呼ばれ、別名「河内カブラ」(河内は地名に由来)とも呼ばれる。ゴウサラシナは、旧中島町河内地区で1985年頃まで焼畑栽培として伝承されていた。杉等の伐採跡に刈り払った草を焼き、そこにゴウサラシナとソバとを場所を分けながら播種して栽培し、播種後2、3年間放任状態にして、毎年春先に若い葉や花茎を食用にしていたという。木下カツエさんの畑を訪問したが、今では焼畑栽培は行わず、畑地の脇に自生しているもの (Photo 8) を利用しているとのことであった。詳しい来歴は不明で、自家用に煮物や漬け物として利用し、葉には苦みがあるとのことであった。自生する植物の葉色は、緑色のものと、紫色を帯びたものが混在していた。石川農総研の特性調査結果では、種皮型はBで、葉は倒披針形、葉縁は波状縁、茎や葉には粗剛な毛じがあり、草姿は開帳型で、抽台はやや早い、根形は扁円で小さく硬く、補充色は緑色である^{7) 8)}。今回の調査では、中能登農林総合事務所の稲葉清弘さんが2005年に増殖した種子を持ち帰った。

7) 曾良カブラ (*B. rapa*, 穴水町曾良⑦)

名前は、産地の地名に由来しており、葉を食用とし麴を使った浅漬けにする（2日間塩漬けした後、2～3日間麴で本漬けする）他、炒め物としても利用している。浅漬けとして加工したものを出荷することもあるが、ほとんどは自家消費されている。鍛冶タカ子さんの圃場で見た曾良カブラの葉は、葉縁の切れ込みが深く（Photo 9）、毛じの有無にばらつきがみられた。また、根部の補充色は、緑色の他、赤色のものもあるということであった。種子は毎年自家採種し利用しているとのことであったが、種子はすべて使用され残っていなかったため、2007年産の種子が採種されてから分譲してもらおうことにし、今回は、石川農総研が1987年に増殖し保存している種子を持ち帰った。

8) ムカシカブラ (*B. rapa*, 穴水町越渡⑧)

焼畑で栽培されていたものが逸出した半栽培種であるが、現在では、こぼれ種が畑地の周囲の道端等に根付き残っているだけとなっている。石川農総研の特性調査結果では、草姿はやや開帳、葉形は頭大羽裂となるが雑ばくで、抽台はやや早い。また、雄性不稔の個体も認められるが、高温期には稔性が回復する⁸⁾。今回の調査では、現地でムカシカブラを特定することができなかつたため、石川農総研が1987年に増殖し保存している種子を持ち帰った。

この他、穴水町下唐川で「カラコカブ」(*B. rapa*)の収集も行う予定であったが、生産者が入院し会うことができず種子を入手できなかった。カラコカブは、葉や花蕾に辛味があり、葉をカラシナと一緒に漬けて、3月にこの地域で行われる「だごだい祭」に供せられるということであった。今回は収集できなかったが、この種子も入手し、ジーンバンクに登録・保存したいと考えている。

4. 所感

冬期間に降・積雪のある北陸地域においては、アブラナ科野菜は重要な保存食の意味合いを持っており、また、地域の祭りや宗教行事と関連を持つものもあって、独特の食文化を形成してきた。しかし、在来品種の多くは、生活様式の変化や近代品種の導入によって、この地域でも急速に失われてきている。今回の探索では、石川県および富山県の協力を得て、貴重な遺伝子資源を多数収集することができたが、これらの多くは、すでに現地での栽培は途絶え、種子が消失して入手困難なものが多かった。一方、現存し栽培されている品種であっても、生産者の多くは高齢者であり、いずれ消失してしまうことが懸念される。また、在来品種の維持・増殖は、その多くが個人の自家採種に委ねられているため、他品種との交雑により雑ばく化し、品種本来の情報を失う危険性があるので、いかに品種を維持・増殖するかが課題である。

5. 謝辞

訪問した生産者の方々には、作物の由来や栽培・利用方法についての情報をいただくとともに貴重な種子を分譲していただいた。石川県の探索・収集には、白山市では石川農林総合事務所の小森明子さんと白山ろく民俗資料館の山口一男さんに、七尾市では七尾市産業部農林課の前畑幸雄さんに、穴水町では奥能登農林総合事務所の廣田泰さんと五田真生さんにご協力いただいた。富山県の探索・収集には、射水市では高岡農業普及指導センターの西村聡さんに、富山市では富山農業普及指導センターの沢田耕一さんに、南砺市では砺波農業普及指導センターの大浦佳世子さんとJ Aなんと上平支店の徳田徳栄さんにご協力いただいた。以上の皆様には心より感謝の意を表します。

6. 参考文献

- 1) 加藤晶子・石田正彦. 2000. 北陸地域における雑穀類遺伝資源の探索収集. 植探報. 16:19-28.
- 2) 松本美枝子・西畑秀次. 2002. 富山県. 都道府県別地方野菜大全. タキイ種苗出版社 (編). 芦沢正和 (監). 農文協. 東京. 131-133
- 3) 坂智広・塔野岡卓二. 1994. 北陸地域における *Leymus* 及び *Elymus* 属の国内遺伝資源の探索. 植探報. 10:59-63.
- 4) 橘礼吉. 1984. エド蕪菁考—白山麓の焼畑における北方系作物—. 石川地域研究. 5:107-124.
- 5) 橘礼吉. 1987. 白山麓の焼畑アラハタカブラ・エドカブラの視点. はくさん. 石川県白山自然保護センター (編). 14(4):10-13.
- 6) 橘礼吉. 1995. カブラ. 白山麓の焼畑農耕. 白水社. 東京. 344-380.
- 7) 山辺守. 1990. 石川県におけるツケナ・カラシナ類の遺伝資源. 今月の農業. 34(8):66-71.
- 8) 山辺守. 2000. アブラナ類の地方品種と遺伝資源. 種苗界. 53(4):16-21.

Table 2. List of collected cruciferous germplasms in Ishikawa and Toyama Prefectures.

石川県と富山県におけるアブラナ科遺伝資源の収集リスト

収集No.	作物名	学名(種属名)	品種名・呼称	収集地(○数字はFig. 1の調査地番号)	来歴・特性等
(石川県: 10月19日~20日に調査・収集)					
06-I-01	カブ	<i>Brassica rapa</i>	イジワルカブラ (別名:ヘイケカブラ)	白山市(河内)①	石川農林総合事務所が2006年に採種, 青又は淡い紫色のカブで硬く, むか漬けなどにする
06-I-02	カブ	<i>Brassica rapa</i>	アラハタカブ (嵐カブ選抜系統)	白山市(白峰)②	白山ろく民俗資料館の山口一男氏が2006年に採種, 福井の嵐カブから従来のアラハタカブに似たものを選抜
06-I-03	ルタバガ	<i>Brassica napus</i>	エドカブ	白山市(白峰)②	白山ろく民俗資料館の山口一男氏が2005年に春採種, 根には甘みがあり煮物に利用
(石川県: 11月22~23日に調査・収集, 後日郵送等を含む)					
06-I-04	カブ	<i>Brassica rapa</i>	ゴウサラシナ (別名:河内カブラ)	七尾市(旧中島町河内)⑥	稲葉清弘氏が2005年に採種, 茎葉には毛が多く硬い, 現在は栽培なく自生しているものを利用
06-I-05	カブ	<i>Brassica rapa</i>	曾良カブラ	穴水市(曾良, 石川農総研から分譲)⑦	石川農総研の増殖保存種子・1987年に採種, 葉は麩漬けにする
06-I-06	カブ	<i>Brassica rapa</i>	ムカシカブラ	穴水町(越渡, 石川農総研から分譲)⑧	石川農総研の増殖保存種子・1987年に採種, 現在では栽培はなく畑の脇等に自生
06-I-07	カブ	<i>Brassica rapa</i>	エタカブラ	穴水町(石川農総研から分譲)	石川農総研の増殖保存種子・1990年に採種(現在では栽培なし)
06-I-08	カブ	<i>Brassica rapa</i>	ムカシカブラ	柳田村(石川農総研から分譲)	石川農総研の増殖保存種子・1985年に採種(現在では栽培なし)
06-I-09	ツケナ	<i>Brassica rapa</i>	北山菜	珠洲市(石川農総研から分譲)	石川農総研の増殖保存種子・1987年に採種(現在では栽培なし)
06-I-10	ツケナ	<i>Brassica rapa</i>	ツケナ(千枚田)	珠洲市(石川農総研から分譲)	石川農総研の増殖保存種子・1987年に採種(現在では栽培なし)
06-I-11	ツケナ	<i>Brassica rapa</i>	猿橋菜	門前町(石川農総研から分譲)	石川農総研の増殖保存種子・1987年に採種(現在では栽培なし)
06-I-12	ツケナ	<i>Brassica rapa</i>	シマナ	輪島市舳倉島(石川農総研から分譲)	石川農総研の増殖保存種子・1990年に採種(現在では栽培なし), 漁民の生鮮野菜として葉や花茎が利用されていた
06-I-13	カラシナ	<i>Brassica juncea</i>	カラシナ(川浦)	珠洲市(石川農総研から分譲)	生産者の本郷祥揚氏が2006年に採種, 種子をカラシとして利用
06-I-14	カラシナ	<i>Brassica juncea</i>	ホンガラシ	門前町(石川農総研から分譲)	石川農総研の増殖保存種子・1987年に採種(現在では栽培なし)
06-I-15	カラシナ	<i>Brassica juncea</i>	ホオバガラシ	門前町(石川農総研から分譲)	石川農総研の増殖保存種子・1987年に採種(現在では栽培なし), 名前は, 葉が大きく「朴の木」の葉のようなという意味
06-I-16	カラシナ	<i>Brassica juncea</i>	カラシナ(浦上)	門前町(石川農総研から分譲)	石川農総研の増殖保存種子・1987年に採種(現在では栽培なし)
06-I-17	カラシナ	<i>Brassica juncea</i>	カラシナ(藤ノ浜)	門前町(石川農総研から分譲)	石川農総研の増殖保存種子・1987年に採種(現在では栽培なし)
06-I-18	カラシナ	<i>Brassica juncea</i>	カラシナ(阿岸川)	門前町(石川農総研から分譲)	石川農総研の増殖保存種子・1987年に採種(現在では栽培なし)
06-I-19	カラシナ	<i>Brassica juncea</i>	カラシナ(道下)	門前町(石川農総研から分譲)	石川農総研の増殖保存種子・1987年に採種(現在では栽培なし)
06-I-20	カラシナ	<i>Brassica juncea</i>	カラシナ(穴水)	穴水町(石川農総研から分譲)	石川農総研の増殖保存種子・1987年に採種(現在では栽培なし)
06-I-21	カラシナ	<i>Brassica juncea</i>	小伊勢菜	輪島市(石川農総研から分譲)	石川農総研の増殖保存種子・1987年に採種(現在では栽培なし), 葉を漬け物にして利用
06-I-22	カラシナ	<i>Brassica juncea</i>	カラセ	輪島市(石川農総研から分譲)	石川農総研の増殖保存種子・1990年に採種(現在では栽培なし)
06-I-23	カラシナ	<i>Brassica juncea</i>	カラシナ(八太郎峠)	輪島市(石川農総研から分譲)	石川農総研の増殖保存種子・1987年に採種(現在では栽培なし)
06-I-24	カラシナ	<i>Brassica juncea</i>	カラシナ(松任)	白山市(石川農総研から分譲)	石川農総研の増殖保存種子・1987年に採種, 早生水稻の刈り取り後に栽培し2, 3月に雪の下から収穫し利用
06-I-25	カラシナ	<i>Brassica juncea</i>	カラシナ(鳥越)	白山市(石川農総研から分譲)	石川農総研の増殖保存種子・1987年に採種(現在では栽培なし)
06-I-26	カラシナ	<i>Brassica juncea</i>	二塚からしな	金沢市(金沢市農業センターより分譲)	海道順一氏が2006年に採種, 葉の色は緑と赤紫色のものが混ざり, 強い辛味と鼻をつく香味がある
(富山県: 11月20日~21日に調査・収集)					
06-T-01	ダイコン	<i>Raphanus sativus</i>	平野ダイコン	射水市(平野)③	生産者の高浪清重氏が2005年に採種, たくあん用品種で細長い形状(直径3cm-長さ40cm程度)
06-T-02	ダイコン	<i>Raphanus sativus</i>	横植えダイコン	砺波市(富山野菜花き試から分譲)	富山野菜花き試の増殖保存種子・2006年に採種
06-T-03	カブ	<i>Brassica rapa</i>	中地山カブ	富山市(中地山)④	生産者の榎キミ子氏・岩木輝子氏が2006年に採種, 赤~紫色のカブで辛味があり, 一夜漬けにする
06-T-04	カブ	<i>Brassica rapa</i>	五箇山カブ	南砺市(小瀬)⑤	小瀬系統, 生産者の羽場美代子氏が2006年に採種, 主に長円錐形となる淡赤色のカブで柔らかく甘味が高い
06-T-05	カブ	<i>Brassica rapa</i>	五箇山カブ	南砺市(富山野菜花き試から分譲)	利賀・千束系統, 2001年に採種



Photo 1. 「イジワルカブラ」



Photo 2. 焼畑の傾斜地で栽培されるヒエ（奥）とアワ（手前）
「エドカブ」はすでに平坦地へ移植されていた。



Photo 3. 「エドカブ」



Photo 4. 「平野ダイコン」



Photo 5. 「平野ダイコン」のハサ掛け



Photo 6 「中地山カブ」



Photo 7. 「五箇山カブ」(小瀬系)



Photo 8. 「ゴウサラシナ」の自生状況



Photo 9. 「曾良カブラ」